

Sculptures and Prints by Marino Marini

特集コーナー展示
Special Section

マリノ・マリーニの彫刻と版画

**ARTIZON
MUSEUM**

マリノ・マリーニの彫刻と版画

マリノ・マリーニ (Marino Marini, 1901-1980) は、20世紀イタリアを代表する彫刻家で、馬と騎手の彫刻で知られています。美術学校では版画と絵画のコースに登録しますが、のちに彫刻コースを選択し、活動の中心は彫刻となります。その一方で、マリーニは、数多くの版画も制作しました。1919年から1980年にかけてマリーニが制作した版画は、カタログ・レゾネによると、372点にのぼりません。銅版画228点、リトグラフ136点、未刊行の版画8点)。1965年にイタリア版画協会の名誉会員となっていることから、版画がマリーニの制作活動の重要な位置を占めていたことがわかります。

現在、石橋財団コレクションには、マリーニの彫刻2点、テンペラ1点、版画67点、書籍1点の合計71点が所蔵されています。本展示では、石橋財団コレクションのマリーニ作品25点によって、この芸術家の多彩な制作活動とその魅力をご紹介します。



アトリエでのマリーニ (1958年)
Servizio fotografico : Milano, 1958 / Paolo Monti.
- Stampe: 5, Biblioteca Europea di Informazione e Cultura, Milano, SER-s5010-0006253
© Copyright/ Credit to/ Paolo Monti/ Corso Sempione [...] / Milano

《馬と騎手》1954年
テンペラ・紙
Horse and Rider, 1954
Tempera on paper

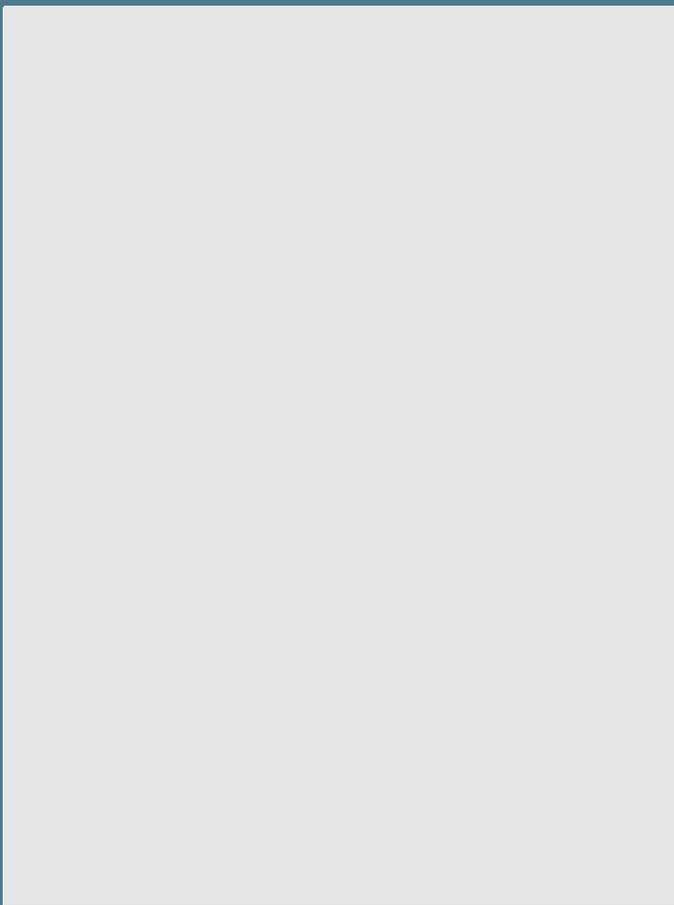
マリーニの彫刻

1930年代頃までのブロンズでは、マリーニは、粘土や石膏原型を荒々しく造形したり、一部欠損させたり、また、石膏の型取りの線や鑄（い）ばりをあえて残すことで、効果的な表現を追求しました。1950年代の30～50センチの小品では、ブロンズの鑄肌（いはだ）に鑿（のみ）で刻みを施す表現を取り入れました。1950年代後半から作品が大型化すると、ブロンズにグラインダを使って刻むようになります。このようにして、ブロンズの表面に、芸術家自身が作品と対峙した痕跡が残され、雨風にさらされたような風合いが生み出されました。

《骑手》1952年
ブロンズ
Rider, 1952
Bronze

マリーニの版画

1



《ポモナのための習作》1943年
リトグラフ
Study for Pomona, 1943
Lithograph

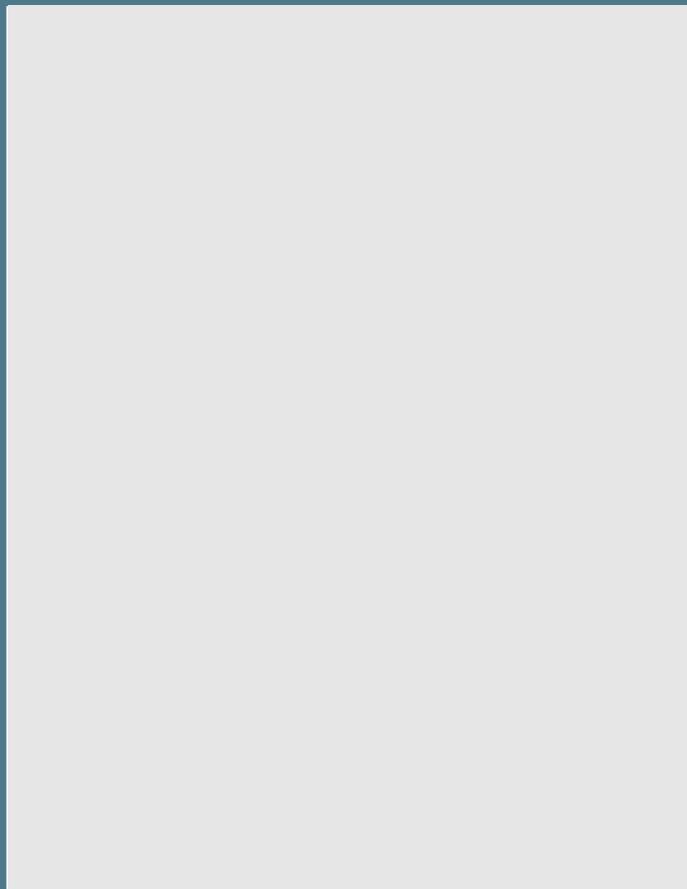
マリーニは語っています。

「私は常に描く必要を感じている。まず、始めに絵画的探究を試み、それを彫刻にする必然性を感じなければ彫刻を作り始めない。」

(『版画藝術』18号、1977年)

マリーニは、美術学校で学んでいた頃から、版画制作をおこなっていました。1950年代にはリトグラフや銅版画による作品を多数発表することになります。石橋財団コレクションには、1943年から1965年のあいだに制作されたリトグラフが含まれており、約20年間の作風の変化をみることができます。

1940年代の版画での関心は、人体の量感にあります。ポモナはローマ神話の果実の女神です。顔が小ぶりなのに比べて、首から下、とりわけ下半身のボリュームが際立っています。ポモナの量感ある身体とは異なり、舞台の上に立つ女性はより均整の取れたかたちで表現されています。



《舞台の上で》1943年
リトグラフ
On the Stage, 1943
Lithograph

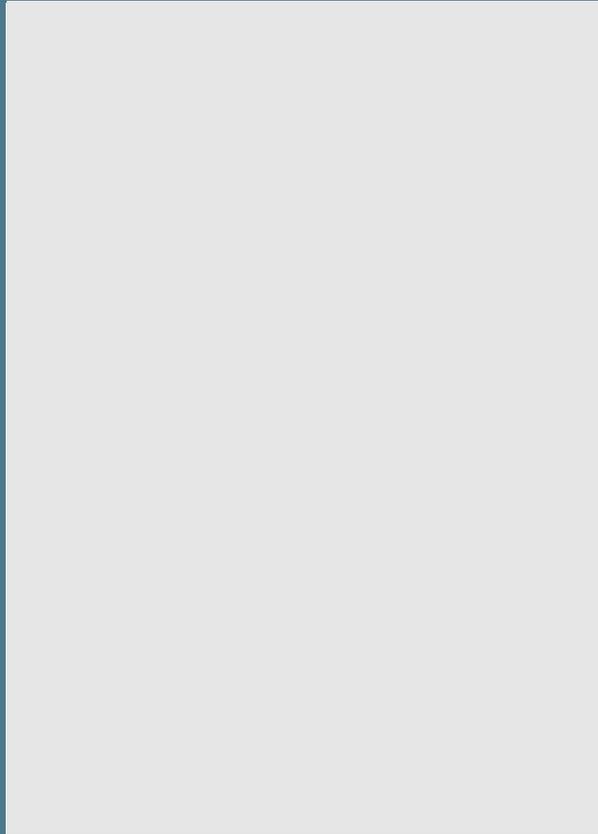
マリーニの版画

2

馬と騎手は、マリーニが生涯を通じて表現し続けた題材ですが、制作時期によってその表現は大きく異なります。1943年の《告知》では、馬に乗る人物の姿が黒一色で描かれていますが、具象的な表現となっています。1953年の《軽業師と二頭の馬》では、馬も人物も単純化されたかたちで表されています。1965年の《待機》では、色面で区切られた背景に、幾何学的なかたちの組みあわせで表現された馬と人物がいます。馬上の人物は、のけぞるように大きく身体を曲げています。

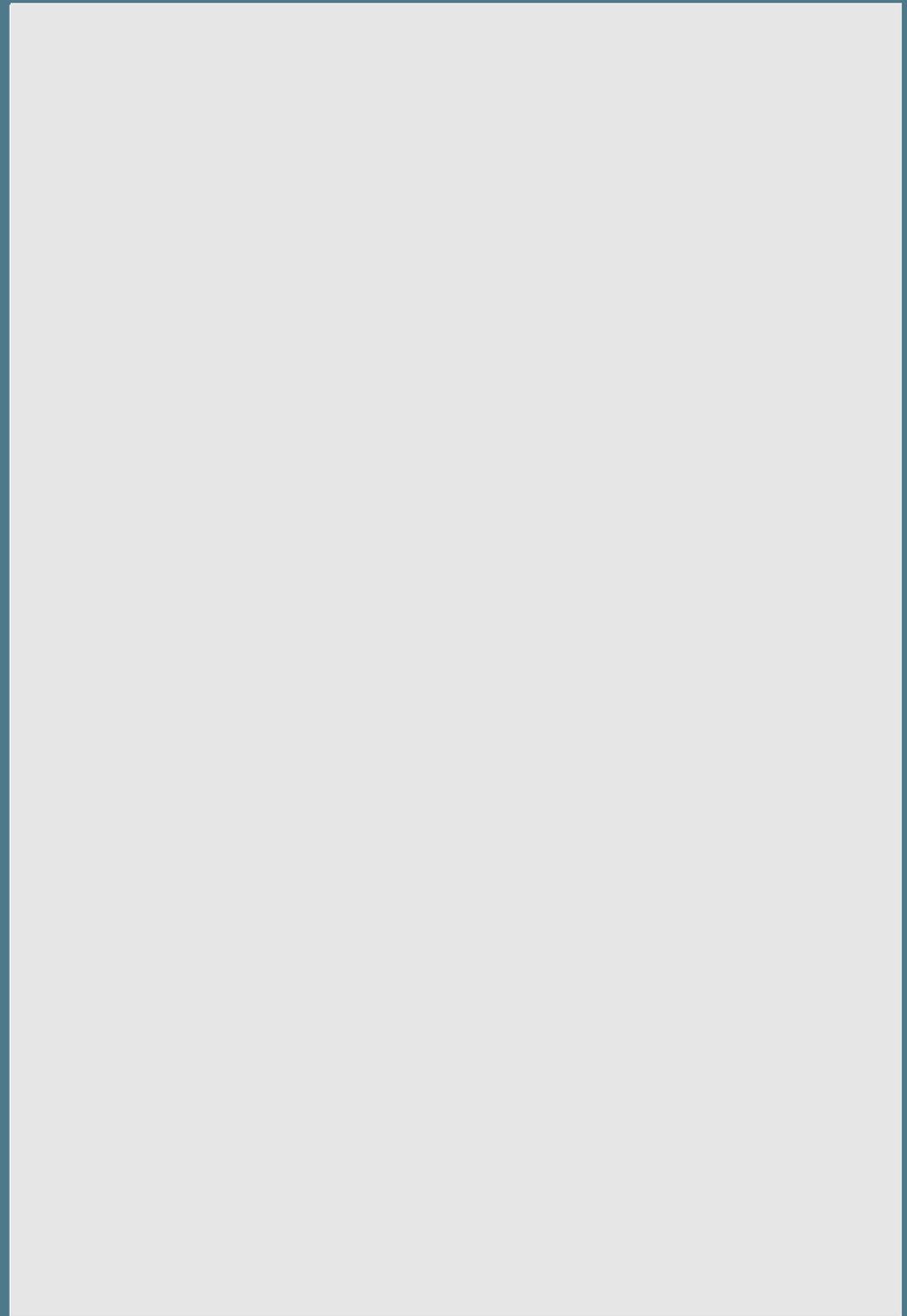


《告知》1943年
リトグラフ
The Announcement, 1943
Lithograph



《軽業師と二頭の馬》1953年
リトグラフ
Juggler and Two Horses, 1953
Lithograph

《待機》1965年
リトグラフ
Waiting, 1965
Lithograph



日本でのマリーニ受容

1952年にヴェネツィア・ビエンナーレで彫刻大賞を受賞したこともあってか、1950年代の日本の雑誌には、マリーニの記事が多く見られます。『みづゑ』1952年12月号では、富永惣一がマリーニ、ファッツィーニ、グレコを紹介し、同誌1953年3月号では、土方定一がブランクーシとマリーニに関する記事を寄せました。

今泉篤男は、『美術手帖』1954年9月号にマリーニ論を寄稿していますが、2年後の記事ではその人柄を教えてください。

「誰でもマリーニに会った人は、彼の人柄の良さをほめる。(略)温和で親しみ深く、しかも素朴で飾り気のない人柄が好まれるらしい。そのうちに芯の徹った強靱なものが一本貫いているということだ。」

(『藝術新潮』1956年11月号)

マリーニに師事した彫刻家の吾妻兼治郎は、学校での様子を伝えてくれます。

「先生は再びミラノのブレラ美術学校教授として少なくとも週二回学校へこられます。(略)非常によく学生を可愛がって下さり、大きな家族の中にいるような感じですよ。」(『日伊文化研究』第4号、1958年)

1960年代、1970年代には日本国内でマリーニ作品を見られるようになります。1960年に東京国立近代美術館で「マリノ・マリーニ石版画」展が開催され、1978年には「マリノ・マリーニ展」が東京、山形、北海道、兵庫、熊本を巡回しました。また、この時期に開催された現代イタリア彫刻に焦点をあてた展覧会でも、マリーニの作品が展示されました。

Marino Marini

マリノ・マリーニ年譜

- 1901年 2月27日、イタリア中部トスカーナ地方の町ビュストイアに生まれる。
- 1917年 双子の妹エグレとともに、フィレンツェの美術学校に入学し、版画と絵画のコースに登録する。
- 1922年 同美術学校の彫刻コースを選択し、ドメニコ・トレンタコステに学ぶ。
- 1929年 ミラノ近郊モンツァのヴィッラ・レアーレ美術学校の教授となり、1940年まで教鞭をとる。
- 1932年 ミラノとローマで初の個展が開催される。
- 1935年 「第2回ローマ・クアドリエンナーレ」で彫刻大賞を受賞する。
- 1940年 ミラノのブレラ美術学校の教授に任命される。
- 1942年 第二次世界大戦のなか、スイスに移る。
- 1946年 スイスより戻り、ミラノに定住。
ふたたびブレラ美術学校で教鞭をとる(～1970年)。
- 1952年 「第26回ヴェネツィア・ビエンナーレ」で彫刻大賞を受賞する。
- 1957年 ローマのアカデーミア・ディ・サン・ルーカ会員となる。
- 1959年 ハーグの野外広場に、5メートルのブロンズ彫刻《騎手》を設置する。
- 1962年 チューリッヒ美術館で大回顧展が開催される。
- 1965年 イタリア版画協会名誉会員となる。
- 1972年 ミラノ市名誉市民となる。
- 1973年 ミラノ市立近代美術館内に6室からなるマリノ・マリーニ美術館が開室する。
- 1974年 イタリア共和国大十字騎士勲章を受章する。
右手首を痛め、絵画や版画の制作に専念する。
- 1975年 ビュストイア市名誉市民となる。
- 1979年 ビュストイアにマリノ・マリーニ資料センターが開館する。
- 1980年 8月6日、トスカーナ地方の古都ヴィアレージョで亡くなる。

アトリエでのマリーニ (1963年)

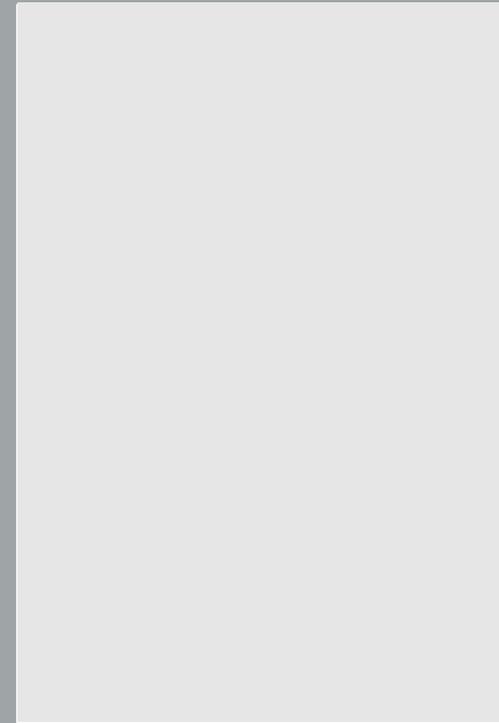
Servizio fotografico: Milano, 1963 / Paolo Monti, - Buste, 31,
Fototipi: 31, Biblioteca Europea di Informazione e Cultura,
Milano, SER-s5010-0006561

Sculptures and Prints by Marino Marini

Marino Marini (1901-1980), one of the leading Italian sculptors of the twentieth century, is especially known for his equestrian sculptures featuring a man on horseback.

At art school, Marini registered for the painting and printmaking courses, but later chose the sculpture course. Sculpture became the core of his work. He also, however, produced many prints. According to the Marini catalogue raisonné, he produced all of 372 prints between 1919 to 1980, 228 etchings, 136 lithographs, and eight unpublished prints. In 1965, he was named an honorary member of the Associazione incisori d'italia, an event indicating the important position printmaking occupied in Marini's creative work.

The Ishibashi Foundation Collection now owns two sculptures, one tempera painting, 67 prints, and one book by Marini, a total of 71 works. This exhibition displays twenty-five works from the collection to introduce the fascination of this artist's creative activities in all their diversity.



表紙：
《コンポジション》1955年
カラーリトグラフ
Composition, 1955
Color lithograph

石橋財団コレクション
特集コーナー展示
マリノ・マリニーの彫刻と版画

2021年5月15日(土) - 9月5日(日)
アーティゾン美術館

企画・執筆：
賀川恭子

デザイン：
田畑 多嘉司
秋本 真奈帆

翻訳：
ルーシー・S.マクレリー

印刷：
株式会社 野毛印刷社

発行・著作：
公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館
〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2

Selections from
the Ishibashi Foundation Collection
Special Section
Sculptures and Prints by Marino Marini

15 May. (Sat) - 5 Sep. (Sun), 2021
Artizon Museum

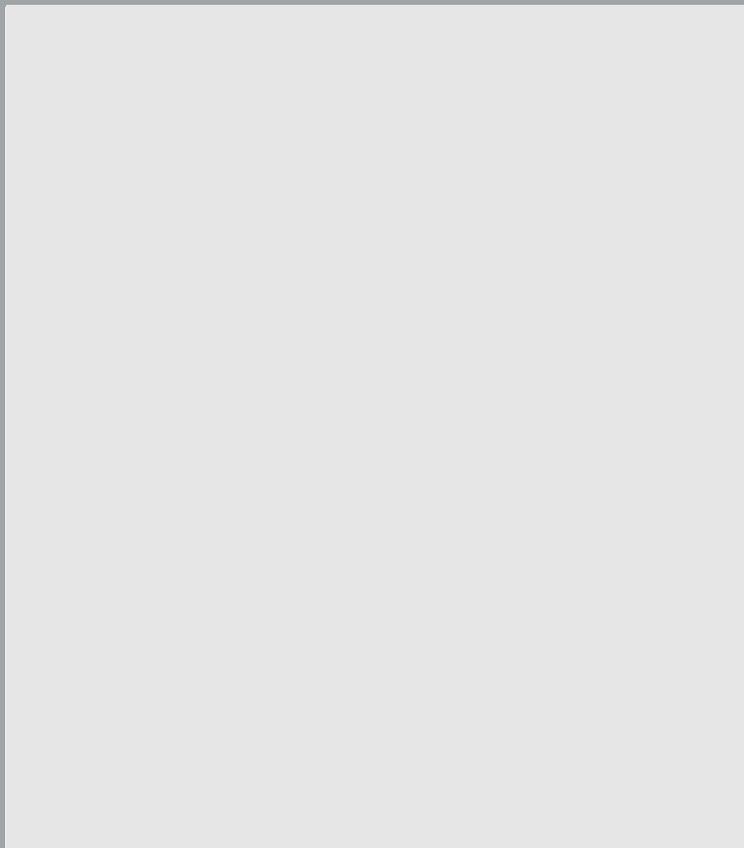
Curation and Texts:
Kyoko Kagawa

Design:
Takashi Tabata
Manaho Akimoto

Translation into English:
Ruth S. McCreery

Printed by
Noge Printing Corp.

Published by
Artizon Museum, Ishibashi Foundation ©2020
1-7-2, Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan



《騎手》1952年、ブロンズ
Rider, 1952, Bronze